

2012年度 年次報告書

2012年4月1日～2013年3月31日

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会

みんなが
健康に暮らせる
世界を
めざして



JOCS東京事務局（月～金 9:00～17:00、土日祝休み）
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 早稲田SIAビル4階
電話：03-3208-2416 FAX:03-3232-6922
使用済み切手に関するお問合せ：03-3208-2418

JOCS関西事務局（月～金 9:30～17:30、土日祝休み）
〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30 大阪聖パウロ教会3階
電話：06-6359-7277 FAX:06-6359-7278

ホームページ：<http://www.jocs.or.jp>
メールお問合せ：info@jocs.or.jp

 公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会
Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service



Accountability Self-Check2008

これは、「JANIC アカウンタビリティ・セルフチェック 2008」マークです。JANIC（国際協力NGOセンター）のアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について当会が適切に自己審査したことを示しています。

悩みつつ歩むときにも — ご挨拶にかえて

日本キリスト教海外医療協力会 (JOCS) 会員の皆さま、そしてさまざまなボランティア活動や使用済み切手収集運動などにかかわってくださっている皆さまに、JOCSへの日頃のご支援に対しまして心から感謝申し上げます。

この度、JOCSは公益社団法人としての歩みを、皆さまによりわかりやすい形でご報告するために、新たに「年次報告書」をお届けすることになりました。

国内にあっては東日本大震災の余波が続き、また世界も激動する今日、いろいろところで多様な支援活動が求められているなかで、時には、「なぜ、他のNGOではなく、JOCSなのか」と悩まれることもあるのではないかと拝察いたします。

会員の皆さまだけでなく、ワーカーやワーカーを目指す若い人々、そして活動を支える理事や事務局職員も、時にはそのような思いに囚われることがあるかもしれません。

そのような「悩みのとき」に、私たちの頼りになるのはやはり「聖書」です。

聖書の中心メッセージは、もちろんイエス・キリストにありますが、ここではイエスに出会った人々、なかでもペトロの身に起こった「事実」に注目したいと思います。

ペトロは、ガリラヤ湖の漁師でした。兄弟アンデレとともに、イエスに出会ったときに「すぐに網を捨てて従った」と記されています (マルコによる福音書1:18)。すでに結婚もしていたのに、日々の収入の道を捨ててイエスの宣教に加わったわけです。そして、イエスについて、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えるほどの信仰をもつに至ります (マタイによる福音書15:13-20)。そのペトロが、イエスが捕えられ十字架につけられるのを前にして、イエスのことを三度も「そんな人は知らない」と否定してしまったのです。

イエスの死後、ペトロは他の仲間とともに故郷に戻り再び漁師の仕事をはじめました。メシア (救い主) と信じたイエスの十字架刑の現場から逃げ去り、元の本阿弥に戻ったのでした。夜通し漁をしても何もとれなかったある夜明けのころ、その彼らに復活なさったイエスが現れます。イエスに対して深い負い目を負っていたペトロの慌てふためく様子や、食事の後、「わたしを愛しているか」と三度もイエスに問われて、「悲しくなった」ペトロの心の動きがヨハネによる福音書21章に記されています。

このような経験を経て、ペトロを含む弟子たちは復活のイエスの「証人」となったのでした (使徒言行録2:32)。以来、2000年の歴史の中で今日まで、世界中で多くの人々がイエスと出会い、イエスに従う証人となってきました。

JOCSの働きも、イエスが愛してやまないこの世の、とりわけ貧しい人々や病に悩む人々、あるいは社会からさげすまれ差別されている人々のために、このような歴史の現実の中で用いられているものであると信じて歩みたいと願うものです。

新しい年度も、どうぞ変わらぬご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会
会長 小島 莊明



JOCSとは

1960年の創立以来、保健医療従事者のアジア・アフリカ諸国への派遣や奨学金支援、協働プロジェクトを通じて、海外保健医療協力を行っています。キリストの愛の精神に基づき、すべての人が支えあう「みんなで生きる」平和な社会の実現に寄与することを目的としています。

●2012年度活動地・支援先



ワーカー派遣： Bangladesh 人民共和国、Pakistan・Islam 共和国、Tanzania 連合共和国

協働プロジェクト： Bangladesh 人民共和国

奨学金支援： Indonesia 共和国、Bangladesh 人民共和国、Nepal 連邦民主共和国、India 共和国、Uganda 共和国、Tanzania 連合共和国

東日本大震災被災者支援： Iwate 県釜石市、Miyagi 県仙台市、Fukushima 県福島市・Iwaki 市・Higashi 川郡

目次

ご挨拶	2	東日本大震災被災者支援	10
JOCSとは	3	育成事業	11
ワーカー派遣	4	国内の動き	12
協働プロジェクト	7	会計報告	14
奨学金支援	8	支援方法、会員数及び役員	15

アジア・アフリカの地域の人々とともに

派遣されたワーカー（保健医療従事者）は、地域の人々とともに、喜びや苦勞を分かち合いながら保健医療の改善に努めます。

任期終了後も、派遣先団体や地域の人々によって活動が引き継がれていくことを目標としています。

2012年度は3カ国に長期派遣ワーカー4名、シニアワーカー1名、短期ワーカー3名の8名を派遣しました。国別では、バングラデシュ5名、タンザニア2名、パキスタン1名でした。文化、習慣、言語、気候、治安状況などは国ごとに違い、職務内容は派遣者・派遣先機関によって異なりますが、ワーカーは皆、派遣地においてカウンターパートと共に歩み、活動を推進しました。

パキスタン

パートナー団体（場所）

聖ラファエル病院（パンジャブ州 ファイザラバード）

マリアの宣教者フランシスコ修道会の修道女たちによって1948年に始められた病院です。毎日100人近くが外来を訪れます。患者の約9割は女性であり、女性のための病院として知られています。

派遣の背景・目的

パキスタンではほとんどが自宅分娩です。病院でお産をするのは、過去に死産したなど正常産の失敗後のケースが多く、緊急手術、未熟児や晩出児が仮死状態であることも少なくありません。派遣された医師は、新生児室で働く助産師に、知識や技術を伝えることを目指しています。

支援対象と活動内容

聖ラファエル病院で産まれる新生児のケア、病的新生児、小児外来患者の対応・治療、病院スタッフの育成、病院併設の助産師学校での講義



●派遣ワーカー（職業）

青木盛ワーカー（医師）

●主な活動と成果

週6日の外来診療、入院児のケア、新生児室の回診と病的新生児の治療を行っています。2012年度には新生児室に新しく保育器を4台購入しました。このことによって、病的新生児の体温管理が適切に行えるようになり、呼吸状態をはじめ全身状態の安定がはかりやすくなりました。また新生児の観察が容易となり、患者の変化に看護スタッフが早く気づけるようになりました。

【助産師学校での講義が始まりました】

2012年度は、助産師学校の学生への講義を以下のテーマで行い、のべ60名の学生が参加しました。

- 講義テーマ：「出生後の肺の生理的变化」
- 「新生児の代表的な呼吸器疾患」
- 「新生児の蘇生法」

2013年度も引き続き、助産師学校学生への講義を定期的に行います。また、小児患者の入院に対応できる設備や、患者の観察の改善など図るほか、新生児室で新しく購入した保育器の適正な使用法や管理（在胎週数と出生体重に合わせた温度設定と湿度調節、使用後の清掃など）について、スタッフと知識を共有していく予定です。

タンザニア

パートナー団体（場所）

タボラ大司教区保健事務所（タボラ州 タボラ）

タンザニア国内にあるカトリックの6つの大司教区のうちのひとつです。11の保健医療施設を管轄しています。

派遣の背景・目的

タボラ州では、人口当たりの保健医療従事者数・施設数がタンザニア全26州のうち下から2番目という低い水準で、東アフリカの中でも最も医療が行き渡らない地域のひとつです。人材、病院、医薬品などが、すべて不足しています。診療協力に加え、現地スタッフの育成を目指しました。

支援対象と活動内容

保健医療施設における診療協力、データ分析、現地スタッフの指導。またタボラ大司教区保健事務所の運営強化のため、3カ月毎のスーパービジョン（傘下の11の施設の巡回を通じた医療監視）による医療管理、官民共同連携の推進、セミナーの企画。

●派遣ワーカー（職業）

倉辻忠俊シニアワーカー（医師）

宮尾陽一短期ワーカー（医師）

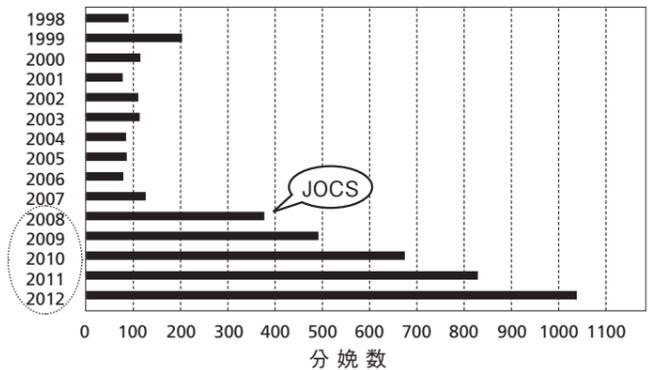
●主な活動と成果

診療協力や現地スタッフの指導を通して、イプリ保健センターでは安全なお産の環境が整ってきています。保健センターの評判が広まり、以前は年間のお産の件数は100件前後でしたが、年々増加し、2012年には1,000件を越えました。

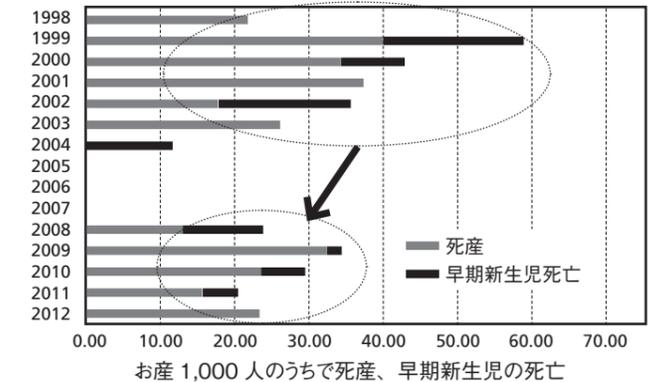
保健事務所の活動では、州保健局の専門家とも協力しながら、各施設の運営改善に取り組みました。また、スタッフ向けのセミナーを「人獣共通感染症の対策と予防」というテーマで開催しました。セミナー参加者には、それぞれの職場に戻った際に同僚に伝達講習を行うことを義務付けました。

約1ヵ月間ンダラ病院に派遣された短期ワーカーは、34件の外科手術に携わりました。甲状腺その他の腫瘍、帝王切開、腸閉そくなど様々な分野の手術を手がけたほか、現地スタッフが自分自身で診断・手術を行い、質の高いサービスを提供できるようになることを目的として、技術面・精神面での指導を行いました。

●安全なお産（イプリ保健センター）



●周産期（死産+早期新生児）死亡



バングラデシュ

パートナー団体 (場所)

チャンドラゴーナ・キリスト教病院 (チャンドラゴーナ)
バングラデシュ第2の都市チッタゴンから車で約2時間の場所にありま。平地の多いこの国では珍しい山岳地域で、少数民族が多く住んでいます。

派遣の背景・目的

政府による医療施設の整備が不十分な地域であり、病院数も十分ではないため、病院に来るのが遅れ重症化してしまうケースが多く見られます。JOCSでは、この病院に医師を派遣することで地域の医療レベルを向上させることを目指しました。

●派遣ワーカー (職業)

宮川眞一ワーカー (医師)

●主な活動と成果

現地に多くみられる糖尿病について現地医師への技術移転、内視鏡検査・腹部エコー検査のマニュアル作成や看護師への技術指導などを行い、病院全体のレベルアップにつなげました。

パートナー団体 (場所)

カイラクリ・クリニック (タンガイル州)

派遣の背景・目的

「貧しい人たちに、貧しい人たちの手で医療サービスをお届ける」ことを目的とした施設で、paramedic (パラメディック 資格はないが医師・看護師の役割を果たす) が診療し、地域の貧しい人たちに最低限の基礎的医療を提供しています。医師はひとりしかいないため、JOCSでは医師を派遣することでスタッフのレベルアップを目指しました。

●派遣ワーカー (職業)

乾眞理子短期ワーカー (医師)

●主な活動と成果

スタッフへの診断・治療法のアドバイス、入院患者の投薬表のチェック、試験紙による尿検査の施行・指導、他院への依頼検査の検体搬送方法の指導を行いました。それによりスタッフの技術力が向上しました。

障がい分野

パートナー団体 (場所)

PCC (Protibondhi Community Centre) (マイメイン)
SMSM Sisters Bangladesh (ダッカ)

派遣の背景・目的

バングラデシュでは障がい者の権利が十分に守られていません。障がいをもつ人は家の中にこもりがちになり、外で活動することが少なくなっています。JOCSは障がいをもって生きる人たちの支援のために、理学療法士や作業療法士を派遣しています。

●派遣ワーカー (職業)

山内章子ワーカー (理学療法士)

石本馨短期ワーカー (作業療法士)

●主な活動と成果

山内ワーカーは各施設をまわり、リハビリテーションが必要な人へのリハビリ提供と指導を行いました。また各施設の理学療法従事者への実技・解剖学等の指導を行い、それぞれの従事者が技術と知識を身につけることによって、施設に来る人々の身体機能が上がりました。

パートナー団体 (場所)

ラルシュ・マイメンシン コミュニティ (マイメイン)

派遣の背景・目的

ラルシュ・マイメンシンは、住む家のない障がいをもつ人々のために家を提供し、生活を支えています。コミュニティを国際ラルシュ連盟のメンバーとして運営していけるよう、組織を整えるためにワーカーを派遣しています。

●派遣ワーカー (職業)

岩本直美ワーカー (看護師)

●主な活動と成果

住む家がバングラデシュの法律によって守られ、障がいをもつ人が仕事をもっていきいきと生活できるように環境を整えています。コミュニティ全体の暮らしのリズムを整え生活の質を高めることができました。これからは障がいをもつメンバーがコミュニティの参画にどのように関わるかが課題です。

※ラルシュとは、知的ハンディを持つ者と持たない者が共に暮らし、お互いの弱いところを認め合い、その人の素晴らしさに気づきながらシンプルに生活する家です。世界に約140のコミュニティがあり、連盟として組織されています。

協働プロジェクト [プロジェクト・リとる] (Project Little=Living together with the People)

現地の力を活かした協力の形

現地の人々や現地NGOが主体となって行う保健医療活動に協力しています。最初のプロジェクトとしてバングラデシュの「学校保健教育プロジェクト」を選定し、子どもたちの健康向上を目指して2010年度より活動を開始しました。

2012年度もバングラデシュの学校保健教育プロジェクトを継続しました。また、カンボジアとタンザニアでの新たな実施に向け調査を開始しました。

学校保健教育プロジェクト (バングラデシュ)

「学校を毎日掃除するようになったよ」

パートナー団体 (場所)

BDP(Basic Development Partners) (ダッカ)

対象地

バングラデシュ ダッカ、プバイル

支援対象者

BDPの運営する学校に通う生徒 (約3,000人)
ダッカ・ミルプール地区3小学校、ガジプール県プバイル地区9小学校、計12校

活動の背景

バングラデシュでは、約20人に1人が5歳になる前に命を落としています (2012年世界子供白書)。子どもたちは、日本のように学校で保健衛生を習ったり健康診断を受けたりする機会をもたず、健康について学ぶことなく成長します。また多くの女性が自らの体や妊娠について十分な知識のないまま10代で結婚、妊娠しており、若年出産のリスクにさらされています。



活動内容と成果

全校で身体測定を行いました。また、ダッカ・ミルプール地区1校、プバイル地区2校で医師による健康診断を行いました。

学校での保健教育授業のため、教員向け基礎トレーニングの実施と指導用マニュアルの作成を行いました。このほか学校美化のための啓発活動として、5月に全校でゴミゼロウィークを開催し、ゴミ拾いのイベントや子どもによる啓発劇を行いました。

このような活動を通して子どもたちの健康や衛生的な環境に関する意識が高まり、学校のトイレや井戸、教室が毎日掃除され衛生的に保たれるようになりました。思春期女子への講習会を実施し92人が受講しました。

思春期の体の変化や、とくにこの時期に必要なとされる栄養素についての指導を行いました。



アジア・アフリカの 保健医療従事者の人材育成のために

アジア・アフリカの国々には、人々が保健医療サービスを受けにくい地域が多くあります。

JOCSでは、そのような地域で働く保健医療従事者に、奨学金の支給を通して研修の機会を提供することで、その地域の保健医療レベルの向上に協力しています。JOCSでは、研修後に自分の生まれた故郷にとどまり、その地域の人々のために働きたいと願う人を奨学生として選んでいます。

2012年度は87人の保健医療従事者に奨学金を支給しました。うち33人は2012年度に研修を修了し所属団体での勤務を開始し、残りの54人は、2013年度も研修を継続します。

奨学金申請の特徴としては、基礎教育への申請が多い国（ウガンダ・タンザニア）と、専門分野や修士への申請が増えている国（インドネシア・ネパールなど）があります。

奨学金申請数が増えている近年、どのような奨学金申請を優先すべきかの再検討が求められています。そのため2013年度に選考方針の見直しを行う予定です。

タンザニアの奨学生のフォローアップを行いました。

奨学生の所属団体を訪問し、勉強を終えた奨学生の勤務状況、現在研修中の奨学生の進捗状況を確認しました。全体的に保健医療従事者が不足しているタボラ州では、当分は医師・看護師・検査技師などの奨学金申請が続きそうであり、今後も、各施設が奨学金制度を利用して計画的に各施設の人材育成に取り組んでいけるよう、支援していきます。



奨学生の声 小さな村の診療所に貢献したい

私は、小さな村の診療所で看護助手をしていました。私の祖母は、シスターを手伝って1984年にこの診療所の母子保健部門を立ち上げました。70歳となった現在も、母子保健の助手として妊婦健診や出産介助を続けています。私は、祖母を手伝いながら働くうちに、「正式な資格を持った看護師・助産師になって、人手不足に悩まされているこの診療所にもっと貢献したい」と思うようになりました。そして、JOCSの奨学金を得て現在看護の勉強をしています。2013年夏には、看護師の資格を取ってルブブ診療所に戻る予定です。



タンザニア タボラ大司教区
ルブブ診療所
ディヴォタ・ティホ・
マヨンビャさん（看護助手）

2012年度奨学金支援

国名	支援先	奨学生数	研修内容	各国の奨学金応募の特徴
インドネシア	ベテスダ病院など、*ICAHS傘下にある医療施設	11名	看護系 6名 (看護士5名、修士1名) 医学 2名 薬学 2名 助産学 1名	看護基礎教育の他、修士のコースを希望する応募者が増加した。インドネシア全土病院の国際認証基準が2012年7月に変わり、2014年までに修士課程を終えていることが看護教員資格保持の必須条件となったためである。 12年度は10人の応募があり、6人が合格した。
バングラデシュ	セントビンセント病院、PIMEシスターズ、チャンドラゴーナ・キリスト教病院	7名	基礎看護 3名 助産学 1名 公衆衛生 1名 理学療法 1名 障がい者支援 1名	ワーカー派遣先からの応募が多く、JOCSの奨学金がワーカーのカウンターパートを育てるための支援として認識されている。 12年度は2人の応募があり、2人が合格した。
ネパール	*HDCS本部、HDCSが運営する病院/*UMNタンセン病院/*TLMNアナンダバン病院/パタン病院/ラリトプール看護学校/タンセン看護学校/ティカプールキリスト教会	22名	看護系 11名 (学士5名、修士2名、基礎看護2名、専門看護2名) 検査学系 4名 公衆衛生系 3名 医学系 2名 (学1名、専門医学1名) 薬学 1名 理学療法 1名	2011年にワーカーが退任したあと、一時的に応募が減ったが、2012年度に応募数は、HDCSを中心にワーカーがいた頃の申請数とほぼ同じになってきている。専門・学士以上レベルの応募が増えてきており、2012年度は博士の応募も複数あったが、いずれもJOCSの方針と合わないため、承認されなかった。 12年度は17人の応募があり、10人が合格した。
インド	クリスチャン・フェローシップ病院	5名	歯学 1名 臨床検査学 1名 医学 1名 薬学 1名 看護学 1名	病院のニーズに合わせて、看護・医学・検査技師などの分野での応募がある。 12年度は3人の応募があり、1人が合格した。
タンザニア	タボラ大司教区保健事務所の傘下にある11の保健医療施設	16名	看護師・助産師 10名 医学 2名 看護師 2名 検査技師 1名 臨床検査技師 1名	民間の病院から政府系の病院へ職員が転職するケースが多い。また、基本的な研修を受けただけで助手として勤務している職員も多い。そのため、民間の医療施設にとっては、正式な資格を持った職員を育成・確保することが急務である。 12年度は16人の応募があり、6人が合格した。
ウガンダ	チオコ病院など*UPMB傘下の医療施設と、Reach Out(エイズ患者のための施設)	26名	看護系 11名 (准看護師3名、看護師4名、修士4名) 助産学(助産師3名) 医学系(医学士2名) 教員(看護1名) 検査技師 4名 麻酔学 3名 HIV/AIDSカウンセリング・検査 1名 健康教育 1名	看護師、助産師など基礎的な分野での研修申請が多い。また現在2名が医学士のための勉強をしている。そのような学費は他と比べ高額だが、内戦による被害を受けたり遠隔地であったりするため医療サービスが十分でない地域からの応募であったため、JOCSは支援を決めた。 12年度は34人の応募があり、10人が合格した。

*ICAHS-Indonesia Christian Association for Health Services (インドネシアキリスト教保健サービス協会)
*HDCS-Human Development and Community Services (ネパールのキリスト教系NGO)
*UMN-United Mission to Nepal (ネパール合同ミッション・ネパールで活動するキリスト教系国際NGO)
*TLMN-The Leprosy Mission Nepal (ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系国際NGO)
*UPMB-Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダプロテスタント医療連盟)

被災地の人々に寄り添いたい

「地元を主体に」という考えのもとで、地元の支援団体と連携しながら、それぞれのニーズに合わせた活動をしています。とくに心のケアや弱い立場におかれた子どもの支援に力を入れています。

宮城県仙台市

支援の背景

津波被害の大きかった地域で、住居や田畑などの復旧作業が続いています。また、子どもへの支援も求められています。

支援対象者と支援内容

被災者の生活再建を支援している東北教区被災者センターにサポートスタッフを派遣しています。主にニュースレターや活動報告書作成を担当しています。

成果

被災地の「いま」を知ってもらい、ボランティアの協力を得ることに貢献しました。

岩手県釜石市

支援の背景

とくに心のケアの重要性が指摘されており、被災者はもちろん支援にあたるボランティアへのケアが求められています。

支援対象者と支援内容

カウンセラーによる被災者の心のケアや支援者のケアに取り組んでいます。また地元地域保健福祉部と連絡をとりつつ、看護師による仮設住宅や孤立集落の戸別訪問を行い、健康維持と心のケアを行っています。

成果

健康面でのケアはもちろん、外部者が訪問し話を聴くということも被災者の助けとなっています。またカウンセラーの活動は広く求められており、とくにボランティアに向けた講義は、様々な団体から開催希望があります。

釜石を訪問している看護師より

仮設住宅の外で出会う方々に声かけをしていったところ、ある老夫婦と知り合ったんです。しばらく談笑したあと、別れ際に「久しぶりに笑った」と言ってくれました。夫婦2人の生活の閉塞感に、外からの空気として私たちのような訪問を求めたのかもしれない。

福島県いわき市

支援の背景

いわき市では、津波による被災者や原発事故による避難者が、仮設住宅で暮らしています。長引く避難生活で、避難者、支援者共に、心理的な問題が大きくなってきています。

支援対象者と支援内容

いわき市仮設住宅集会所で医師・保健師が月2回健康相談を行っている他、いわき市で被災者の交流スペースを運営している「シャプラニール＝市民による海外協力の会」スタッフの心理的ケアにも協力しています。

成果

定期的に訪問することで、被災者の方々が心を開いて相談してくれるようになりました。震災から2年以上経っても仮の住まいで厳しい状況にある方々が、相談日を楽しみにしてくださっています。

福島県内児童養護施設

支援の背景

福島県内の児童養護施設には、様々な事情から親元に帰ることのできない子どもが生活しています。原発事故後の放射能の問題が施設子どもたちに及ばないよう、健康管理が必要になっています。

支援対象者と支援内容

施設子どもたちの被ばく量低減のため、食品放射能測定室設置、個人被ばく量測定を支援しました。住民票を施設に異動できないために公的な検査の通知が来ない子どもを中心に、甲状腺検査にも協力しました。

成果

施設内で毎食前に食事の放射能測定を行い、子どもたちに安全な食事の提供を保障できるようになりました。被ばく量の測定は、ホットスポットの発見や外部被ばく量低減に役立てられています。



育成事業

海外での保健医療協力活動に関する人材を育成するために、勉強会やセミナー、ツアーを開催しています。

海外保健医療勉強会

- 2012年度は「感染症」をテーマに5回の勉強会を開催しました。
- 2012年
 - 6月22日 NTD (Neglected Tropical Diseases)
 - ー小さくされた人々の感染症
 - 10月12日 ハンセン病
 - 11月30日 バングラデシュの病院での実例から
- 2013年
 - 3月8日 タンザニアの病院での実例から
 - 4月12日 感染症看護



海外保健医療協力セミナー

- 2012年12月15日～16日 横浜市寿地区
- テーマ：横浜寿地区で活動する保健医療従事者・宗教者をたずねて草の根の人々と働く姿勢を学ぶ2日間

参加者の感想

海外保健医療協力セミナー参加者より

寿地区に対して漠然と「危ないところ」「人が寄り付かないところ」というイメージを抱いていたが、知識のないイメージはただの偏見であり、自分の目で見て確かめることが大事だと改めて気付きました。日本社会がこのような現状を生み出してしまっていることにショックを受け、また、それを知らなかった自分を恥ずかしく思いました。小さくされた人々と寄り添って生きるということは本当に素晴らしく、私もそういう働き方、生き方をしたいと思いました。

フィールド勉強会

- 2013年2月24日 国立療養所多磨全生園（東京都東村山市）
- テーマ：ハンセン病の特徴と日本での歴史をフィールドで学び、海外保健医療協力について考える



スタディツアー

- 2012年7月28日～8月6日
- 南インドの病院をたずねて（タミル・ナードゥ州オダンチャトラム）
- 参加者がインドの保健医療事情を自分の目で見て学び、医療の現場に携わる人々の熱意を感じることができました。



スタディツアー参加者より

医療現場の忙しさは日本と同じであるのに、「何か」違うのです。エネルギー、情熱、希望…そのようなものをヒシヒシと感じました。給料が少なかったり、苦勞が多くても生き生きと輝いている人々の根底にあるものは何なのか、と考えるとき、その答えの一つに信仰があげられます。ツアーで出会った南インドの病院のスタッフの姿を忘れず、人に対する優しさ、医療へ真摯に携わること、忙しい日本の医療現場に出てもこの気持ちは忘れずに持ち続けたい、と願っています。

国内の動き

● 2012 年度イベントピックアップ

第5回海外保健医療協力者会議 / 通称：ネクステ (Next Step) 会議
 約10年に一度の海外保健医療協力者会議が、神奈川県三浦海岸で開催されました。JOCSの今後の課題は何か、また課題を解決するために何をすべきかを「使命」「国内活動」「クリスチャニティ」「保健医療協力活動」という4つのテーマに基づいて話し合いました。会議で話し合われたことが最終日に「覚え書き」に記され、実施のためのアクションプラン作成に向けた理事会の協議を2013年度から始めます。



● 受賞しました

JOCS 創立50周年記念DVD「カシ ナマ ジュバン」
 ITVA (国際企業映像協会) - 日本ビデオコンテスト2012
 (社外コミュニケーション部門) 銀賞



地区 JOCS 活動

地区JOCSは地域のJOCS会員と教会やYMCAなどで組織され、JOCSの活動を広めるために自主的な活動を行っています。今年度の主な活動は以下のとおりです。

- **地区 JOCS 主催のワーカー報告会**
 仙台、足利、町田、京都、大阪、芦屋、神戸、四国高知で開催しました。
- **その他のイベント**
 仙台 7/4～8/11 写真展開催
 7/29 地球フェスタに出展
 足利 12/8 足利市民クリスマス
 町田 12/15 クリスマス会
 京都 4/14 チャリティウォーカーソン
 7/28 チャリティコンサート
 大阪 6/2、10/20、3/1 大阪JOCSカフェ開催
 四国高知10/7～10/8 高知スタンプショウに出展



国内啓発活動

- **関西バザー** JOCSの周知、使用済み切手運動への協力強化などのために毎年開催しています。5月12日に開催し、約380名の来場者がありました。
- **グローバルフェスタ** 10月6～7日に日比谷公園で開催された国際協力NGOが集まるイベントです。JOCSは活動や使用済み切手運動の紹介をしました。
- **写真展** 「みんなで生きる表紙」写真展、及び「1ルピーの贈りもの」絵本原画展が東北2ヵ所で開催されました。

仙台 日本基督教団東北教区センター エマオ
 7月4日～8月11日
 盛岡 クロステラス盛岡 10月15日～28日
 写真を通して、たくさんの地域の人にJOCSの活動を知ってもらえる良い機会となりました。



● **切手まつり** 使用済み切手運動を広める目的で、8月2日千葉県富里市の若草児童館で、また2月22日～24日山口県防府市で開催しました。

● **チャリティー講演会** 3月23日『人を育てる 未来をつくる 日野原重明101歳』を開催しました。日野原氏が、ご自身とJOCSの関わりについて講演し、奨学金支援のための募金も呼びかけていただきました。

参加者の声「何歳になっても夢をもって新しいことに挑戦することの大切さ、人のために何かをする喜びなどを教わり、日野原先生から元気をいただきました。」

アジア・アフリカの現状を伝えるために

ワーカー報告会

2012年度は倉辻ワーカー (タンザニア派遣・医師) と宮川ワーカー (バングラデシュ派遣・医師) がそれぞれの活動を終えて帰国しました。全国の学校や教会など、計122箇所において報告会を開催し、3,000名を超える来場者が現地の活動の話をお聞きしました。



小中学校でのワークショップ

「健康」・「いのち」をテーマに2つの学校でワークショップを開催しました。2013年度も継続して実施し、また新たなワークショップ開催校開拓の可能性を探っていく予定です。

- **2012年度ワークショップ実施校**
 青山学院初等部
 宗教プロジェクト
 横浜共立学園
 YWCA



講師派遣・事務局訪問受入

アジア・アフリカの保健医療の現状やJOCSの活動について学んでいただく機会を提供しています。当会事務局スタッフが、教会や学校など各種団体へお伺いする講師派遣や、グループによる事務局訪問受入を行っています。

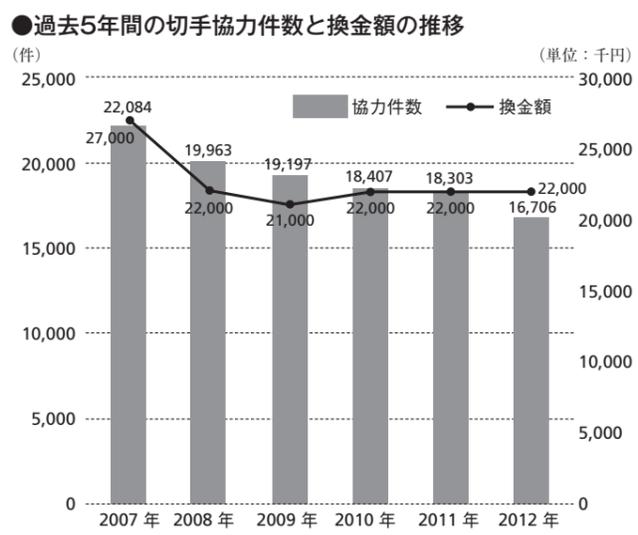
- **2012年度講師派遣実績**
 小・中・高等学校……9
 大学……3
 幼稚園……2
 教会……5
 その他団体 (YMCA、省庁など) ……19

- **2012年度事務局見学受け入れ実績**
 修学旅行訪問学習……3
 その他、学校訪問学習……5
 教会……1
 その他団体……2

使用済み切手運動

JOCSでは、使用済みの切手を集めている収集家の方々に切手を買取っていただき、換金したお金を寄付・会費と合わせて、海外の保健医療事情の向上のために役立てています。

使用済み切手の受託量は、この数年少しずつ減ってきていますが、外国コイン類や書き損じはがきなどによる収入増加もあり、実質的な換金額は、ほぼ変わっていません。



捨てた切手の大きなパワー

YMCA 東京日本語学校 イ・スルギさん

JOCSでお話をうかがったことで、私の意識は大きく変わりました。ずっとゴミだと思っていた切手が1枚1枚集まり、それが欲しい人にはコレクションの楽しみを、またアジア・アフリカの子どもたちには命の綱になるとは、すごく素晴らしいことだと思いました。助けを求める人たちに手を伸ばしたくてもなかなか私には出来ないことだと思っていたのに、古い切手を捨てずに集めることだけで大きな力になることを知り、とても感動しました。

2012 年度会計報告

皆様のお支えにより、2012 年度も海外での保健医療協力事業を遂行するとともに、東日本大震災被災者支援活動を実施できたことを感謝申し上げます。

正味財産増減計算書 2012年4月1日～2013年3月31日 (単位：万円)

I 一般正味財産増減の部		2 経常外増減の部	
1 経常増減の部		(1) 経常外収益	0
(1) 経常収益		(2) 経常外費用	0
① 特定資産運用益	509	経常外費用計	0
② 受取会費	2,776	税引前当期一般正味財産増減額	△ 2,864
③ 事業収益 (使用済み切手・書き損じはがき)	2,184	法人税、住民税及び事業税	58
事業収益 (その他)	99	一般正味財産期首残高	59,451
④ 受取寄付金	9,548	一般正味財産期末残高	56,529
⑤ 雑収益	35		
経常収益計	15,151		
(2) 経常費用		II 指定正味財産増減の部	
① 事業費	15,821	① 受取指定寄付	609
海外派遣	3,726	② 一般正味財産への振替額	△ 664
奨学金	870	当期指定正味財産増減額	△ 55
協働プロジェクト	229	指定正味財産期首残高	951
災害救援	664	指定正味財産期末残高	896
国内活動	1,389		
50周年記念事業費	230	III 正味財産期末残高	57,425
事務所費	1,074		
その他	7,639		
② 管理費	2,194		
人件費	1,232		
事務所費	163		
その他	799		
経常費用計	18,015		
当期経常増減額	△ 2,864		

※数値はそれぞれ四捨五入しています
※受取指定寄付は東日本大震災復興支援寄付です

貸借対照表 2013年3月31日現在 (単位：万円)

資産の部		負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	623
現金預金	4,783	2 固定負債	3,898
貯蔵品	628	負債合計	4,521
前払金	49		
2 固定資産		正味財産の部	
特定資産	55,501	1 指定正味財産	896
その他固定資産	985	2 一般正味財産	56,529
資産合計	61,946	正味財産合計	57,425
		負債及び正味財産合計	61,946

東日本大震災被災者支援寄付

2012年度募金総額 609万円
(前年度からの繰越金 864万円)
2012年度の活動地と使用した金額の内訳は、以下のとおりです。
(単位：万円)

活動地	2012年度
宮城県仙台市	96
岩手県釜石市	190
福島県いわき市	95
福島県内児童養護施設	255
その他	28
合計	664

あなたの支援を待っている人がいます。

ひとりでも多くの人へ健康を届けられるように、ぜひJOCSの会員となって活動を支援してください。JOCSの活動に賛同される方は、どなたでも会員としてご協力いただけます。

会費の種別と会費額

社員会員 年10,000円以上の任意の額

JOCSを構成する会員。総会の議決権、また理事の選挙権及び被選挙権をもちます。

一般会員 年5,000円以上の任意の額 (18歳未満の方は、年2,000円以上の任意額)

JOCSの活動を支える会員。総会の議決権や理事の選挙権、被選挙権はありません。

会員特典 会報誌「みんなで生きる」をお届けします。

JOCS主催の勉強会やセミナー参加時に会員割引が受けられます。

ご入会・ご寄付の方法

郵便振替 口座番号：00170-3-13986

口座名：日本キリスト教海外医療協会 募金部

(ご入会お申し込みの場合は「入会申込」と払込表の余白にご記入ください。)

銀行振替 三菱東京UFJ銀行 高田馬場駅前支店 口座番号：0831838

口座名：公益社団法人 日本キリスト教海外医療協会

*お名前とご連絡先を東京事務局にお知らせください。

クレジットカード決済 (月々500円から) ホームページ (<http://www.jocs.or.jp>) よりお申し込みください。

*銀行・ゆうちょ銀行口座からの口座振替 (月々又は年払) もご利用いただけます。ご希望の方はJOCS事務局までお問い合わせください。

JOCS 会員数

4,471 名 (2013年3月31日現在)

JOCS 役員

会 長 小島 莊明 (医師、大学名誉教授)

常務理事 畑野 研太郎 (医師)

理 事 植松 功 (伝道者)

大江 浩 (JOCS総主事)

大友 宣 (医師)

高梨 愛子 (医師)

仁科 晴弘 (医師)

平本 実 (団体職員)

渡部 芳彦 (歯科医、大学准教授)

監 事 小澤 英輔 (医師)

辻本 嘉助 (医師)

